

いんぷおみやぎ



令和4年度「家庭の日」絵画・ポスター 優秀作品
「みんなでおたんじょうび会」宮城教育大学附属小学校1年 野上 愛馨 さん

CONTENTS

- 2 令和4年度青少年のための宮城県民会議の主な事業
- 3 地域研修会の開催
- 4 「家庭の日」作品募集審査結果
- 6 少年の主張宮城県大会
- 8 青少年健全育成みやぎ県民のつどい
- 10 研修大会
- 12 家庭の日 PR

発行・問い合わせ先

青少年のための宮城県民会議 (とらいゆ〜す MIYAGI)

〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1
宮城県環境生活部共同参画社会推進課内
TEL : 022-211-2577 FAX : 022-211-2392
E-mail : seisyo9@pref.miyagi.lg.jp

青少年のための宮城県民会議

検索



会員を募集しています

青少年の健全な育成を願い、県民の皆様のご協力をいただいております。私たちの活動の趣旨をご理解いただき、ぜひ会員として入会していただきますようお願いいたします。申し込みは随時受け付けておりますので、事務局までご連絡ください。

正会員（年会費）

青少年育成機関・団体
1口 5,000円（1口以上）
企業 1口 10,000円（1口以上）

賛助会員（年会費）

個人 1口 3,000円（1口以上）
団体 1口 5,000円（1口以上）
企業 1口 10,000円（1口以上）

令和4年度

青少年のための宮城県民会議の主な事業

令和4年度の総会は、5月31日(火)に、宮城県庁講堂で開催しました。コロナ禍での開催ということで、当日は42名の参加（事前の書面表決提出数70）でしたが、令和3年度の事業報告・決算、令和4年度の事業計画・予算案、そして規約の一部改正案が、原案のとおり可決・承認されました。

質疑の中では、総会参加者を増やす取り組みや市町民会議未設置市町に対する働きかけについて御意見をいただきました。



【主な事業】

R4. 4.22	会計監査 第1回役員会
5.31	令和4年度総会 (参加者数42名、宮城県庁講堂)
6.14~27	地域研修会(県内5地区会場)
7.4~9.2	「家庭の日」作品募集
7月~9月	少年の主張地区大会(県内12地区)
8. 3	第1回研修委員会
9.17	「家庭の日」PR活動 ①(参加者数・親子53名、松島自然の家) ②(参加者数・親子24名、志津川自然の家)
9.29	少年の主張宮城県大会 (参加者数87名、名取市文化会館)
10. 6	「家庭の日」作品審査会
10.14	第2回研修委員会
10.16	「家庭の日」PR活動 ③(参加者数48名、オーエンス泉岳自然ふれあい館) ④(参加者数70名、蔵王自然の家)
11.11	青少年健全育成みやぎ県民のつどい (参加者数133名、柴田町・槻木生涯学習センター)
12. 6	第2回運営委員会(役員会から名称変更)
12.17	「家庭の日」PR活動 ⑤(参加者数22名、国立花山青少年自然の家)
12.20	第1回常任委員会
12.22~	「家庭の日」作品展示(県庁1階ロビー)
R5. 1.12	
1.24	第3回研修委員会
2.10	研修大会 (参加者数111名、仙台市・東京エレクトロンホール宮城)
3. 3	第3回運営委員会
3.14	第2回常任委員会



【青少年健全育成応援事業】

正会員または正会員に加盟する団体・グループが主催する青少年健全育成のための活動に、経費の一部補助をするもので、今年度は以下の事業に補助しました。

○「広報啓発事業」

青少年のための登米市民会議

○「中学生リーダー研修会」

青少年健全育成松島町民会議



秋田県にかほ市の中学生とのオンライングループワークを実施

【おじゃまします事業】

各地区または市町村民会議等で開催される青少年健全育成大会や研修会に、テーマに応じた講師を派遣し健全育成運動の啓発や情報の提供を行う事業です。今年度の依頼は次のとおりでした。

「青少年の健全育成講話等」

- 青少年健全育成古川大会
- 青少年のための涌谷町民会議(資料提供)
- 青少年のための登米市民会議石越支部・石越町子ども会育成協議会「合同会員研修会」
- 宮城県青少年アドバイザー連絡協議会
- 「青少年のインターネット安全利用講話」
- 仙台市立富沢小学校(保護者)
- 宮城県古川工業高等学校定時制課程(生徒)
- 仙台市立芦口小学校(5年生・保護者)
- 宮城県立角田高等学校(生徒5人)
- 山元町民生委員児童委員協議会
- 登米市立南方中学校(入学予定保護者)
- 青少年のための大崎市民古川会議
(県出前講座含んでおります)



地域研修会を開催

令和4年度の「地域研修会」を、県内5地区で開催しました。
 研修では、今年度の活動に役立てていただくために2つの講話を行いました。



◆会場◆

仙南・仙台南地区	－6月14日（火）	大河原合同庁舎	〈38名〉
石巻地区	－6月17日（金）	石巻合同庁舎	〈25名〉
北部地区	－6月21日（火）	大崎合同庁舎	〈41名〉
仙台市・仙台北地区	－6月23日（木）	自治会館	〈34名〉
登米・気仙沼地区	－6月27日（月）	登米合同庁舎	〈23名〉
			参加者計〈161名〉

講話Ⅰ 「青少年のインターネット安全利用について」

講師：宮城県共同参画社会推進課青少年育成班 佐藤 賢治 氏

インターネット利用をめぐる青少年の現状や最新のトラブル事例が紹介され、家庭でのルールづくりの必要性などについて話がありました。また、県が作成した「インターネット安全安心利用動画」の紹介もあり、進化するネット環境に遅れをとらない対応が求められているという話に強い課題意識を持つことができました。

講話Ⅱ 「活動報告」

講師：【仙南・仙台南地区】	小泉 勇 氏（村田町）	／	保田久美子 氏（亶理町）
【石巻地区】	阿部ひろみ 氏（東松島市）	／	杉浦 有紀 氏（石巻市）
【北部地区】	下成 則子 氏（大崎市古川）	／	三浦 徳義 氏（栗原市志波姫）
【仙台市・仙台北地区】	佐藤キヨ子 氏（松島町）	／	江口 龍市 氏（七ヶ浜町）
【登米・気仙沼地区】	高橋 時子 氏（登米市迫）	／	橘 智法 氏（登米市津山）

会場ごと、2名の青少年育成推進指導員から、令和3年度のご自身の活動のほか市町村事業などについて、具体的なお話をうかがいました。とどまることのない児童生徒の減少や担い手の高齢化等に加え、コロナ禍での活動に多くの制限がある中、様々に工夫し奮闘されている講師のお話は、新たな年度の活動スタートにあたって、大いに勇気づけられるものとなりました。



アンケートより

－回答者数74／青少年育成推進指導員出席者数88－



	大変参考になった	まあまあ参考になった	あまり参考にならなかった	まったく参考にならない
講話1	45	26	3	0
講話2	45	26	2	1

（感想）

- 低年齢層にまでインターネットの利用率があがっているのにおどろきを感じました。インターネット利用はキケン！と思うより、安全に利用するために、どう利用したら良いか、学ぶこと話し合うことをしなければならぬと思いました。
- インターネット、スマートフォンにおける危険度を、親及び子どもはどこまで感じているかです。もっともっと啓発活動が必要ではと思いました。
- 動画は、地域の方への啓発に使いたいと思います。
- 「子どもたちの良いところを見つけることを心がける」本当に大事なことです。学校への報告も、悪いことばかりではいけないですね。
- 子どもたちを守る大変さを地域の住民とともに共有できるよう、もっとしっかり活動しなければと思いました。
- コロナ禍においても、なんとか活動を実施して成果を上げていて参考になりました。
- 市民会議が力を入れなければならない関係機関との連携から離れたイベントだけになりつつあるので、参考になりました。

「家庭の日」作品募集 審査結果

学校の夏休み期間を挟んだ令和4年7月4日(月)から9月2日(金)まで、「家庭の日」作品の募集を行い、絵画・ポスター部門137点(児童の部56点、生徒の部81点)、川柳部門318句(児童生徒の部230句、一般の部88句)の応募がありました。その中から、入選作品として絵画・ポスター部門20点、川柳部門14句を選出しました。

入選作品は、「家庭の日」への理解を深めるために、令和4年12月22日(木)から令和5年1月12日(木)の期間、県庁ロビーで展示したほか、各会議の場での紹介、カレンダーや啓発物品等への掲載で、広く活用しています。



表紙の
作品

優秀作品

(敬称略)



みんなでおたんじょうび会
宮城教育大学附属小学校1年 野上 愛馨



楽しいおたんじょう会
宮城教育大学附属小学校2年 太郎丸 莉杏



家族と過ごそう!家庭の日
宮城県古川黎明中学校3年 高橋 れいら



雨の日のお出かけ
仙台市立五城中学校3年 菅野 文耀



「家庭の日」
絵画・ポスター優秀作品 表彰式

優秀作品に選ばれた4名には、11月11日に行われた県民のつどいにて、賞状と記念品が授与されました。(当日出席は2名)

毎月第3日曜日は
「家庭の日」

令和5年度もたくさんのご応募をお待ちしております



入選作品

(敬称略)

【絵画・ポスター部門】

◆児童の部



いつか家族で行きたい場所
柴田町立船迫小学校1年 安藤 慈祐



家族の絵
柴田町立槻木小学校2年 高橋 清羅



家族ですこした思い出
栗原市立志波姫小学校2年 佐藤 柊斗



たのしい思い出
大衡村立大衡小学校3年 大下 麻希



ひまわりをみんなで育てたよ
大衡村立大衡小学校4年 富永 莉愛



のんびり のびのびする日
巨理町立巨理小学校5年 辻 彩結



家庭の日地域で笑顔
石巻市立前谷地小学校5年 池田 萌愛



家族の笑顔
石巻市立前谷地小学校6年 布川 昂暉

◆生徒の部



みんなで食べるごはん
富谷市立東向陽台中学校1年 横山 陽奈



家族の楽しいひととき
栗原市立若柳中学校2年 佐々木 希



かけがえのない存在
塩竈市立第一中学校2年 寺嶋 菜々美



ほかほかクッキー、ほかほか家族
富谷市立東向陽台中学校2年 岡田 玲美



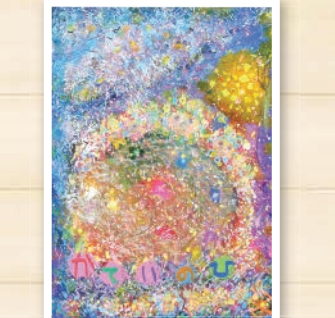
毎月第3日曜日は家庭の日
家族であいさつ習慣化
石巻市立青葉中学校2年 大森 貴大



思い出
大河原町立金ヶ瀬中学校2年 木幡 滯



スイカを囲んで
石巻市立河北中学校3年 遠藤 すず



るるろろ(かたつむり)とおはなみ
宮城県立小松島支援学校高2年 鈴木 正広

◆一般の部

子離れをしたはずなのにライン待つ
柴田町 安ヶ平 奈津枝

三世代で困む時間に笑み重ね
仙台市青葉区 南部 多喜子

兄さんと夢中で追ったオニヤンマ
富谷市 加賀 由恵

ただいまの声を読み取る母の耳
仙台市青葉区 宮本 実

ひまわりの家庭笑顔が満ちあふれ
石巻市 佐々木 昭浩

母は言う家族の笑みが一番だ
古川学園高等学校 1年 安齋 朋香

お弁当親の愛情隠し味
古川学園高等学校 1年 千葉 成

お茶の間で麦茶片手に笑い声
美里町立不動堂中学校 2年 川名 大喜

朝と夜家族で検温新習慣
仙台市立仙台青陵中等教育学校 1年 富川 紅亜

たまごやきほったおちる祖母の味
宮城教育大学附属小学校 6年 鈴木 悠真

夏祭車で家族花火見る
南三陸町立戸倉小学校 5年 後藤 桜翔

父さんの作る料理に銀メダル
南三陸町立戸倉小学校 5年 熊谷 百夏

ひさしぶりばばのりょうりママのあじ
南三陸町立戸倉小学校 2年 阿部 詩菜

カエル見てばくにたすけをよんだママ
栗原市立栗駒南小学校 2年 伊藤 樹

【川柳部門】

◆児童・生徒の部

少年の主張

宮城県大会 結果報告

少年の主張宮城県大会を、9月29日(木)に名取市文化会館で開催しました。当初予定した中ホールが地震の影響で使えなくなったため、小ホールでの開催となりましたが、一般聴衆を前に、地区大会の代表となった13名の中学生は、毎日の生活や体験を通して感じていることなどをしっかりとまとめ、堂々と発表しました。



審査結果

宮城県知事賞

「私のスタートライン」

塩竈市立玉川中学校 3年 浅野 友希

青少年のための宮城県民会議会長賞

「私だからできること」

気仙沼市立階上中学校 3年 佐藤ひなた

「理解と共生」をめざして

仙台市立七北田中学校 3年 加藤 咲季



優良賞

(県大会出場者全員が受賞・発表順)

素直な心で	仙台市立田子中学校	3年	遠藤 茉莉
命のバトン	大河原町立大河原中学校	3年	長田 楓花
私と「個性」	登米市立津山中学校	3年	櫻田 彩
笑顔で Hello !	松島町立松島中学校	3年	高橋 利奈
本気になって	仙台市立沖野中学校	3年	荒 みちる
「違う」って当たり前	仙台市立長町中学校	3年	浅沼 心結
ドラマに恋して	仙台市立五城中学校	3年	児玉 綾乃
「惜しみなく」	石巻市立河北中学校	3年	今野 海結
「経験値0」からの出発	栗原市立若柳中学校	2年	高橋 陽
「学校が楽しい」と言えるように	加美町立宮崎中学校	3年	早坂 美優

県知事賞を受賞した浅野さんは、北海道・東北ブロック代表として、全国大会に動画出場 (Web 開催：11月1日～30日) し、審査委員会委員長賞を受賞しました。

令和4年度宮城県知事賞受賞作品 (全国大会出場 審査委員会委員長賞受賞)

私のスタートライン

塩竈市立玉川中学校 3年 ^{あさの}浅野 ^{ゆき}友希



「あ、地震。」

就寝して間もなく、突然の揺れ、枕元に置いたスマートフォンから流れる耳ざわりな音に、私は飛び起きました。

東日本大震災から11年が経過した今年3月16日。福島県を震源とする、マグニチュード7.4の地震が、私の住む宮城県を襲いました。すぐに家族と声を掛けあうと心が落ちつききました。

「緊急地震速報の音、本当すごい。」

「超うるさい音だよ。熟睡していても絶対気付く。」

家族と交わした何げない会話が、ふと、私の心にひっかかりました。「この音を聞くことができない人は、地震の時どうしてるんだろう。」そんな疑問が頭から離れず、気になった私は調べてみることにしたのです。

日本には、いったいどれ位の聴覚障害者の方々がいるのでしょうか。その数は約29万人と言われてます。この数を聞いて、多い・少ない、どう感じたのでしょうか。

私は、人数の多さに驚きました。というのも、私は今まで、聴覚障害者と呼ばれる人達と接することが無かったからです。

このことを父に話すと、父は、

・ 東日本大震災の時にも、様々な障害を持つ人達の避難や対応が問題になったこと。

・ 聴覚が不自由な人は、自治体等の防災無線や避難警報の音を聞けず、災害の時に、正しい情報を入手できないまま、逃げ遅れてしまう可能性があること。

・ 父自身、仕事で知り合った聴覚障害者の方と筆談や身ぶり手ぶりを交しえながらコミュニケーションした経験があり、手話の必要性を実感したこと。

そして、社会の中で、ハード・ソフト両面で、バリアフリーの必

要性があることを教えてくれたのです。

さらに、父は、私を外へと連れ出しました。

父と一緒に目にしたのは、歩道上の点字ブロック、車椅子や高齢者の為のスロープ付きの通路。エレベーターや案内板の点字表示、そして、視覚障害者用の音響式信号機。

日常社会の中にあふれる、様々なバリアフリーを目のあたりにして、私は、日本に既にある優しい社会環境に気付かされたのです。

私には、多様な人々が暮らす社会への理解がまだまだ足りない。

そんな私の思いに気付いたのでしょか。

父は、

「互いを思いやり、わかり合おうとしようとするのが大事だよ。気付いた時に、どうするかを考えて、行動に移せばいい。」

と言ってくれたのです。

地震のあの日、聞いた、緊急地震速報。

私は、その音を聞いた事をきっかけに芽生えた疑問から、自ら調べ、父と学び、様々な障害をとりまく社会の一部を知りました。

そして、今の私にできることは何かと考えた時、一人一人が誰かを支えあえる社会を担う人間になりたいと思ったのです。

まだ知らない誰かを思いやり、行動する。

きっと、ここが私のスタートライン。

私は、手話を学び始めました。

テレビや本など、学び場を探しながら、独学で勉強中です。

私達の暮らす、これからの社会が、より良い未来になるように、今、自分にできること。

少しずつでも一歩ずつ、前に進めるように。

私は、これからも、自ら考え、学び、行動していきます。

みなさんも、何か始めてみませんか。

そこが、あなたのスタートラインです。

私だからできること



「SDGsが、やりたいことをサポートしてくれる。SDGsは、君をより遠くまで連れて行ってくれる乗り物なんだ。」

これは、気仙沼に移住し、漁師さんが使い終わった漁具のリサイクルに取り込む加藤さんの言葉です。

海には魚を捕るときに使った網が大量に捨てられています。それらは、海洋プラスチックとなって海を汚染します。また、投棄された網にアザラシやカメなどの海洋生物がからまって命を落とすこともあります。加藤さんは、そんな漁網を回収し、生地にして、服やカバンを作ることを考えたのです。

私は、学校の探究学習で、海洋ゴミについて調べています。インターネットによると、海洋汚染、海水温の上昇、海洋資源の減少など様々なことが分かりました。家族で近くの海のゴミ拾いに行った時には、あまりのゴミの多さに言葉を失いました。ペットボトルや空き缶、ホースや機械のかけら、扇風機の羽までありました。スーパー袋を数枚持って海に向かった自分の甘さを後悔し、インターネットで見ていた世界が、今の目の前の現実として存在していることに衝撃を受けました。

なんとかしたい。私にできることは何だろう。

そんな時、加藤さんの講話を聞いたのです。私は加藤さんに質問しました。

「海のゴミを減らすために、中学生でもできることはありますか。」

すると、反対に、加藤さんから、「中学生でも、じゃなくて、中学生だからできることって何だろう？」と問われたのです。はっとしました。

「例えば、SDGsを今やっていることに当てはめる、というより、

気仙沼市立階上中学校 3年 佐藤 ひなた

自分がやりたいことを後押ししてくれるものはどれか、考えてみたらどうだろう。」

私だからできること、自分がやりたいこと……。そうか、好きなこと、得意なことから始めればいいんだ。ぱっと視界が開けたような気がしました。

私は絵を描くことが好き。本を読むことや動画を見るのが好き。そうだ、海のゴミについての動画やパンフレットを作成しよう。それをいろいろな場所に置いてもらい、自主的なゴミ拾いを呼び掛けよう。

この考えを先生や友達に伝えると、

「ゴミ拾いを実際にどのくらいの人がしたのか分かるといいね。」

「大人に興味を持ってもらうには、どんな内容にするの？」

と、参考になる意見をもらい、やる気が高まりました。

私は、地域の伝承館で語り部をしているのですが、その活動で、「中学生が真剣に語る姿に胸を打たれた。」「自分の子どもの未来を考えるようになった。」という感想をいただいたことがあります。同じように、海の豊かさを守るために、中学生の私が学び、考えたことを、自ら発信することに意味がある。それを、世界の目標であるSDGsと関係付けることで、より多くの人に伝わり、可能性が広がっていく、そう気付きました。

どんなに大きな問題でも、その解決の鍵は、一人一人の小さな行動にあります。ゴミ拾いも特別なイベントではなく、例えば散歩のついでに、家族とのレジャーの合間に、月1回の習慣に、など生活の一部に組み込むのはどうでしょう。私は、これから、この提案を、自分の言葉で、自分なりの方法で、たくさんの人に伝えたいと思っています。

私だからできることが、きっとある。

「理解と共生」をめざして



「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。」

金子みすゞのこの詩を私に教えてくれたのは、教育実習の先生でした。この詩から受けた感銘が、姉と心を通わせていく大きなきっかけになったのを、今でも覚えています。

皆さんは「點頭てんかん」という病気を知っていますか。私の姉は生まれてすぐ脳の病気であるこれになり、その影響で発達に遅滞をきたす障害を抱えました。幼い頃はさほど感じていませんでしたが、小学校高学年位の頃から私は、姉の言葉や行動の独特さに苦手意識を持つようになりました。ささいな事で大声を出す。思い通りにならないとパニックになってしまう。そんな姉に、どんなに抑えても怒りがこみ上げてくる日もありました。

耐えきれなくなったある日、私は思わず、

「お姉ちゃんなんか、いなきやよかった！」

こんな言葉を姉に浴びせてしまいました。すると姉は非常に驚き、悲しそうな顔をしました。そして突然、部屋を出て行ったのです。私は自分を恥じました。そして一晩眠れませんでした。ところが次の日姉は、何もなかったかのように「おはよう。」と接してきました。私は拍子抜けです。姉の寛容さを喜べず、納得できませんでした。わだかまりの方が大きくなる私は、だんだん姉との関わりに苦むようになっていきました。

そんな私の心を変えてくれたのは、中2の春にやってきた教育実習の先生でした。先生は大学で発達障害について学んでいるとおっしゃったのです。それを知って私は、勇気を出して姉のことを打ち明けてみました。その時先生から言われたことが忘れられません。「発達障害で最も大切なことはね、その人の良さを理解すること、その人に合った支援をして一緒に歩む、ということなんですよ。」

私ははっとしました。姉妹なのに自分は今までどうしてきたら

仙台市立七北田中学校 3年 加藤 咲季

う。姉の行動に不満を持ち、怒ることの方が圧倒的に多かった。姉の明るさや優しさを認めたり、感謝したりなどしてこなかった。自分が一番無理解で思いやりがなかったんだと、初めて気づきました。

私は先生から教わったことを、少しずつ家で実践し始めました。姉と話す時は、曖昧な表現をしない、具体的に伝える、話は最後まで聞く、こだわりも尊重してあげる、などです。すると、姉との会話が以前よりずっと弾むようになりました。心の通う瞬間も感じられる位に変わっていったのです。

同時に私は、発達障害についての本を初めて開いたり、母にも聞いたりして、少しずつ学ぶ努力を始めてみました。そこで改めて必要だと分かったことがありました。それは、「理解と共生」です。

姉は今障害者雇用で働いていますが、職場でも日々、色々なことが起きるようです。悪口、差別、嘲笑……。姉への無理解は、社会に出てあちこちであり、これらの偏見と闘わなければいけない状況でもあります。

しかしそこで思い出すのは、実習生の先生が教えてくれた金子みすゞの詩の一節です。

「みんなちがってみんないい。」

現代は多様性を尊ぶ動きの高まっている時代です。お互いの違いを理解し、違うからこそ手を取り合って共に生きよう、そう考えれば、社会はもっと温かく、生きやすいものになっていけるのではないでしょうか。この世の全てのものは皆同等の価値を持ち尊い、というこの詩の思いを私は再びかみしめました。

私は将来、この「理解と共生」のために少しでも役に立つ動きをする人になれないか、と考えています。私達の願いの先に、必ずお互いが手を取り合える明るい未来が待つと信じたいです。それを目指して、私はまず姉と笑顔で会話する。ここから始めよう、と決意しています。

※発表の動画と作文は、青少年のための宮城県民会議のホームページに掲載しています。右の二次元コードを読み取ってご覧ください。



青少年健全育成 みやぎ県民のつどい

期日：令和4年11月11日(金) 会場：柴田町・槻木生涯学習センター

小春日和となり暖房を入れる必要もない会場に、「自然や文化体験活動を通じた青少年の健全育成」の大会テーマのもと、133名の参加者が一堂に会しました。はじめに、青少年健全育成に尽力された方々等への県民会議会長表彰、並びに「家庭の日」絵画・ポスター優秀作品の表彰や、少年の主張宮城県大会で県知事賞、県民会議会長賞受賞者3名の発表がありました。

その後、基調講演として、「物語&体験の力～農家&童話作家の視点から」と題し、児童文学作家&農家 日本児童文芸家協会理事 堀米 薫 氏にご講演いただきました。



基調講演

演題：「物語&体験の力～農家&童話作家の視点から」



講師：児童文学作家&農家 日本児童文芸家協会理事 堀米 薫 氏

〈プロフィール〉

福島県生まれ、宮城県角田市在住。岩手大学大学院農学研究科修了。十二代続く専業農家の主婦&農産物直売所に所属。

児童文学作家としてデビュー13年目。単行本23冊、アンソロジー多数。「チョコレートと青い空(そうえん社)」で日本児童文芸家協会新人賞、全国青少年感想文コンクール課題図書。「金色のキャベツ(そうえん社)」で、全国感想画コンクール課題図書。「あきらめないことにしたの(新日本出版社)」で児童ベン大賞。

自然、農業をモチーフに童話やエッセイを執筆する他、読み聞かせや教育関係の講演活動、作文コンクールの審査員なども務めている。



今回の講演では、堀米さんの長年にわたる農家と童話作家としての視点から、言葉と出会うと世界が変わる、言葉と体験が結びついたとき、本当の「生きる力」になる、というお話を伺うことができました。

【どうして童話作家に？】

- 読書は疑似体験。
父が読書家、実家の壁は一面が本棚。
子どもの頃は、毎月1冊配本を利用して本を買ってもらった。
毎日夜8時になるとテレビを消して1時間、家族で本を読んでいた。
楽しい時間で、本を読むのが好きになった。
- 出会いを糧にきらきら輝く人に会いたい。
エッセイコンクールなどで入賞すると、第一線で活躍される方に出会うことができる貴重な体験ができた。そのような体験を糧に、児童書をたくさん読むことで文章の書き方を勉強し、デビュー。

【仙台真田氏物語】

- テーマは「義と仁」。
義とは、人としてなすべきことは何か。
仁とは、優しさのこと。優しいとは、人の悲しみを知ること。優しく人の悲しみを知ることが、優れた人と言えるのではないかと。

【あぐり☆サイエンスクラブ】

- 「空を読む」とは？
今はスマホで何でも調べられるが、自分の体で分かるってすごいこと。
結局、自分の身についたものこそが一番信じられる。
「ここまでしないとお米は口に入らないんだなあ」と骨身に染みる田の草取り体験など、コツコツと積み上げる作業が私たちの生活を支え、心を鍛えてくれる。
- 「よい実りがありますように」「台風が来ませんように」。
どんなにAIが発達しても、自然にはかなわない。
祈りは子育てでも同じ。「どうか、無事に育つてくれますように」「大変な目に合いませんように」。祈り続けること、じっくり時間をかけること。農業と子育てはとても近いところにあるような気がする。
- 「田んぼはたすき」
どの田んぼも、子供たちの暮らしが少しでも良くなるようにと願いながら、先人たちが苦労して作りあげてきたもの。先人からたすきを受け取ってきたように、私たちも、感じてきたことや体験してきたことを次の世代へ何かしら手渡したいという願いがある。手渡すものは、人それぞれ。皆様なら何を手渡すでしょうか？

【チョコレートと青い空】

- JICAや農業団体を通して、世界中からやってくる研修生やホームステイのゲスト「私は家族を愛しています。自分の国を誇りに思っています。そのために働きたいのです」と口をそろえて言う。
- ガーナと言えばチョコレート。
しかし、ガーナの研修生クリスさんは大人になるまでチョコレートを食べたことがないと言う。カカオの実を取るために児童労働が問題になっている。賃金も驚くほど安い。「知らない」ということは恐ろしいこと。
- スウェーデンの男性に料理をお願いしたら、二つ返事で伝統のミートボールをつくってくれた。とてもおいしい。「なるほど、スウェーデンは男女共同参画社会だから、男性も料理が得意なんだなあ」とお国柄が理解できた。
これからのグローバル社会では、英語が話せるだけでなく、自分の国の歴史や文化をどれだけ理解しているかという、「教養」が一層問われるんだと、痛感した。
- この本のテーマは「家族愛」誇り。
「家族愛」も「誇り」も、これまで出会った研修生たちの言葉がもともになっている。

これからの本統の勉強はねえ
義理で教はることでないんだ
吹雪やわづかの仕事のひまで
泣きながら からだに刻んで行く勉強が
まもなくぐんぐん強い芽を噴いて どこまでのびるかわからない
それがこれからのあたらしい学問のはじまりなんだ
ぢやさようなら
…雲からも風からも
透明なエネルギーが
そのこどもにそぐきだれ
(宮沢賢治:稲作挿話より)

会長表彰



●青少年健全育成成功労者・個人 —順不同/市町は活動地域—

市町村	氏名	市町村	氏名	市町村	氏名
大河原町	古山陽子様	利府町	野崎利忠様	大崎市	中村篤様
柴田町	木村邦雄様	利府町	佐藤久様	大崎市	高橋鉄夫様
塩竈市	松尾伸彦様	石巻市	佐藤清子様	登米市	三浦博之様
多賀城市	斎藤晴美様	東松島市	佐藤秀俊様	登米市	齋藤輝雄様
多賀城市	石塚五男様	女川町	阿部丈太郎様	登米市	佐々木弘喜様
名取市	佐伯貴博様	大崎市	及川國男様	栗原市	武田邦俊様
名取市	金濱まき子様	大崎市	筒井ミエ子様	栗原市	坂本侑也様

●青少年健全育成成功労者（団体）

登米市 横山火伏獅子舞保存会 様

- 設立/昭和54年 ■代表者名/西條孝一
- 昭和55年より、横山不動尊奉納、正月巡行、老人ホーム慰問と併せ、津山町内の小・中学校生徒へ火伏獅子舞の指導を行い、伝統文化を継承している。



気仙沼市 新月地区青少年育成協議会 様

- 設立/平成10年 ■代表者名/小山茂樹
- 気仙沼市青少年育成協議会の青少年健全育成推進指定モデル地区（R元・3年度）として活動した。
- 地区青少年健全育成講演会、研修会、家庭教育学級の開催や、地区小学校ふれあい教室の助成、地区小中学校にスローガンの募集、看板作製、看板設置を行う。



●在学青少年社会参加活動善行者（団体）

多賀城市 ジュニアリーダー「エステバン」 様

- 設立/昭和57年 ■代表者名/阿部怜奈
- 地域のイベントや子ども会の行事、児童館やスポーツクラブなどで、子ども向けのゲームを教えたり、イベントを盛り上げたり、子どもたちに関わる支援活動に取り組んでいる。
- 老人ホームの慰問や施設周辺の清掃活動等を通して、地域に貢献している。



女川町 ジュニアリーダーサークル うみねこ 様

- 設立/昭和51年 ■代表者名/多澤優里彩
- 各種研修会への参加を通し、子どもたちや町民へのボランティア活動を実践している。
- 各地区の子ども会行事で、児童の交流を深めるゲームを行ったり、行事運営のサポートを行ったりしている。
- 定例会でリーダー力の向上に努め、町主催の行事で司会・進行・ゲーム等の役割を担っている。



全国青少年育成県民会議連合会 『青少年指導者等顕彰』受賞

県民会議常任委員 齋藤辰治様
(石巻市青少年健全育成市民会議会長)

全国22道県が加盟する全国青少年育成県民会議連合会より、多年に亘る青少年健全育成指導者としての地域活動への功績が認められ、顕彰表彰が授与されました。

一般社団法人宮城県子ども会育成連合会 『感謝状』受賞

青少年のための宮城県民会議

多年にわたり、会の発展及び健全育成向上に尽力したとして、創立50周年記念式典において表彰されました。



研修大会



大会テーマ：『地域が青少年の居場所となるために』

期日：令和5年2月10日(金) 場所：仙台市・東京エレクトロンホール宮城

令和4年度の「研修大会」は、仙台市を会場に、これまでの8月開催を変更し2月に行いました。大会の準備にあたる研修委員会では、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、午後だけの開催で時間短縮を図ることとし、研修内容については、講演のほか、参加者同士の意見交換の場として分科会を設けることとしました。



講演 『地域の居場所としての子ども食堂』

発表者：仙台市青葉区・ひなたごはん
仙台市宮城野区・よりみち～のんびり食堂
ファシリテーター：社会福祉法人仙台市社会福祉協議会
八田ゆかり氏
植村 暢子氏
春 由美氏

仙台市社会福祉協議会では、子どもの地域での居場所づくりの支援に取り組んでおり、仙台市内に約60ヶ所ある「子ども食堂」の概要を説明していただきました。また、実際に運営している2団体より運営内容について具体的なお話や今後の目標などを伺いました。



●仙台市社会福祉協議会 春 由美氏より

子ども食堂とは

- 子どもが一人で行ける無料または低額の食堂
「地域食堂」「みんなの食堂」とし、子ども限定ではなく世代間交流も目的にしているところも含まれ、民間初、自主的、自発的で、「孤食」「困窮」等社会的な課題への取組のひとつ
 - 心地よい居場所を提供できる場
「大人との出会いの場」「遊びを知る場」「食育、防災等経験の場」「さまざまな体験と様々な人と交流する場」等
- さらには
「子どもが夢を持てる社会」「子育てがしやすい社会」
「困った時に助け合える社会」「地域で安心して暮らせる社会」等健全な地域づくりを目指し進めている

誰が、いつ、どこで

- 【誰が】
地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、町内会、PTA、NPO法人（非営利活動法人）、ボランティアグループ、企業、高齢者施設、障害児者施設、保育園等
- 【いつ】
毎週、毎月1～2回、2ヶ月に1回
※子ども食堂によって異なる
- 【どこで】
市民センター、コミュニティセンター、集会所、施設
小学校、中学校、NPO法人等の建物、商業施設等

仙台市社協把握状況 (2022.12.28現在)

- 【把握数】60団体（許可済み団体はホームページ掲載）
【令和4年度助成金申請団体】40団体
- 【運営主体】
ボランティア団体 29 NPO法人 13
地区社協 4 学校 2
社福法人 5 社団法人 5 企業 2
- 【休止中9団体（コロナの影響及び団体事情）の運営主体】
社福法人 2 NPO法人 1 社団法人 1
地区社協 1 ボランティア団体 4
- 【形態】
会食 35 配食 34 宅食 10 （内併用 23）

参加者の声 （聞き取り一部）

- 【児童の声】
- ・転校して、まだ学校でお友達が出来なかった時に、ここでできた
 - ・初めて包丁をもって野菜を切った。楽しかった
 - ・手伝いを頼まれたのが嬉しかった
- 【保護者の声】
- ・近所で顔の見えるつながりができた
 - ・子どもがよく話すようになり、明るくなった
 - ・子ども食堂に来るようになって学校に喜んでいくようになった
- 【学生ボランティアの声】
- ・小学校では参加者だったが、中学校からボランティアで来ている
 - ・ここに来ると大人と話せて、安心できる

参加者から

- 「子ども食堂」の60という数に驚いている。寄付で賄っているのもすばらしい。社協のかかわりが大きいと感じたし、行政とのつながりも大切だと感じた。
- 「子ども食堂」について、名前は知っていましたが、詳しい内容については知らなかったのが、良い機会となりました。「子ども食堂」という名前であっても、地域の方が利用していたり、大学生や一般の方がボランティアとして活動していたり、まさに地域に根付いた活動であると理解しました。また、「子ども食堂」を利用した子どもの様子から、民生委員、児相、学校といった機関と協力し、子どもを守る体制が作られている点は、非常に良いことだと思いました。

●「ひなたごはん」

八田 ゆかり 氏



ひなたぼっこは2009年に地域の支援に取り組む拠点として活動をスタートしました。地域の方にも運営に関わってもらい、地域の課題に取り組む中で、子どもの居場所づくりへの取り組みも行うようになり 2018年に「ひなたごはん（子ども食堂）」を開始しました。

八田さんは「子どもたちがいつでもどこでも集えるような場所をめざしてこれからもやっていきたい。ひとりでも多くの子どもたちが、いろいろな人たちと繋がりをもって成長していくことを地域で見守っていければいいと思っています」とお話しくださいました。

ひなたぼっこの目的

高齢者や障害者、子ども、日常生活で何らかの課題を抱えている人を含め、

「だれもが地域で普通に」

暮らし続けることのできる地域社会の実現を目指す。

事業の2つの柱

『個人の暮らし』を支える

- ・対象を限定せず、全ての人を対象
- ・必要な期間住まう（一時生活支援）
- ・在宅復帰、地域での生活を目標に

『地域の暮らし』に関わる

- ・地域交流サロン
- ・子どもの日中一時支援
- ・子どもの居場所づくり
- ・講座、学習会
- ・月刊情報紙（学区全戸配付）

支え合い

参加者から

- 「子どもたちの笑顔がわたしたちの活力源です」との言葉に、子どもたちの未来に、光を見たような感じがしました。
- 大変な活動をしているのに、楽しみながら活動しているように見受けられ、うらやましかったです。
- 子どもだけじゃなく高齢者も一緒にというところがいいなあと思いました。

●「よりみち～のんびり食堂」

植村 暢子 氏



よりみちの会が運営する「よりみち～のんびり食堂」は、ご自身のお子さんの不登校を経験した植村さんが、学校以外の子どもの居場所づくりの必要性を感じ有志と共に 2019年7月にスタートさせました。

地域を限定せずに、子どもたちや保護者、また高齢者の皆さんにも食事やレクリエーションを提供、食材や食品の配布も行っています。運営は学生ボランティア、地域の民生委員さんのグループからも協力を得て、安定した活動を行えるようになりました。

植村さんは「子どもだけではなく親子で安心してきてもらえるような場にしていきたい」とお話しくださいました。



参加者から

- 「人に対するあたたかいおもいを大事にできる場」にしたいという話が聞けてとても参考になりました。
- 会食だけでなく、みんなで遊んだり学んだりできるのがいいですね。
- コロナの中、地域の人たちとも協力し、いろいろ工夫してやっている様子がわかりました。

〈分科会での発言〉

- 「子ども食堂」の意義は、思っていた以上にいろいろある。必要な資格のこともわかった。「子ども食堂」は地域が元気になる活動である。
- 「子ども食堂」=貧困とばかり思っていたので、今日の話に、ショックを受けた。高齢者も集うこと、すばらしい。世代間交流もすばらしい。
- 「子ども食堂」は、名前ぐらいしか知らなかったが、実際の活動や地域の方々をつなぐ活動を知り、すばらしいと感じた。各機関と協力して、子どもを守るところもすばらしい。身近な「子ども食堂」に目を向けたい。
- 「子ども食堂」に持っていたイメージが変わった。地域の交流の場になっているし、子どもの育成の場としてすばらしいと感じた。雪だるま的に活動がふくらんでいくのもすばらしい。

- 「子ども食堂」は、あたたかな居場所となっていて、やりがいのある活動だ。支援された子が、支援する側になっているのもすばらしい。非行少年の居場所づくりを行っているので、考えていきたい。
- 長年PTAとかかわっていて学校とのかかわりが多いが、地域でも役職を持っていて、地域とどうかかわっていくのが課題と感じている。子どもを孤立させないために、実際何をしたらよいか。震災時は、炊き出しを行い、資格も取ったが、コロナで活動を断念したが、やっぱりやらなければと思った。だれもが共有できる「食」を通じて、コミュニティづくりをしていきたい。みんなをつなぐ活動として、「食」のことを勉強していきたい。

【令和4年度 研修委員】

〈研修委員長〉 櫻井 美之 (仙台市)

〈研修委員〉 阿部 有子 (仙南地区)

佐々木 真 (気仙沼・本吉地区)

早坂 淳子 (大崎地区)

三浦 徳義 (栗原地区)

佐々木定義 (仙台地区)

遠藤まり子 (仙台市)

佐々木正範 (仙台地区)

齋藤 俊美 (石巻地区)

毎月第3日曜日は

「家庭の日」



「家庭の日」PR活動

自然の家など県内5公所で「家庭の日—毎月第3日曜日—」等に行われた事業に向き、参加者に「家庭の日」や「ノーメディアデー」のPRをしました。

参加者のみなさんには、「家庭の日」絵画・ポスターや川柳作品に関心を示して話を聞いていただきました。また、啓発物品の軍手をさっそく使って活動していたり、親子で工作したりと、楽しく過ごす姿が見られました。



オーエンス泉岳自然ふれあい館



志津川自然の家



松島自然の家



国立花山青少年自然の家



蔵王自然の家

青少年のためのインターネット安全安心利用推進フォーラム



令和5年度も開催します！みなさんでぜひご参加ください！

スマートフォンの普及により、SNSなどを通してトラブルに巻き込まれる青少年が年々増えてきていることはご存じですか？

このようなネットトラブルから青少年を守るため、県共同参画社会推進課では、東北会病院の村田副院長を講師に迎え、令和5年2月6日(月)にインターネットの安全利用について考えるフォーラムを開催しました。

会場には多くの方が集まり、質疑応答も活発に行われました。



★ ★ 青少年のためのインターネット安全安心利用推進フォーラムでも上映しました！

インターネット安全安心利用の動画(YouTube)

青少年が、インターネットのトラブルに巻き込まれないために、知ってほしいポイントをまとめた動画です。

お気軽に様々な機会でご覧ください。また、学校の授業や保護者の方の勉強会などでご利用ください。

動画はコチラから

青少年の皆さんへ (4分)



保護者の皆さんへ (5分)

